



るうてる

箱崎群教会共同体版

一月報 メッセージと
証し

発行 日本福音ルーテル箱崎教会

代表者 牧師 和田 憲明

〒812-0053 福岡市東区箱崎 3-32-3

T E L (092) 641-5440 / F A X (092) 641-5480

箱崎教会・恵泉幼稚園 <http://www.jelc.or.jp/hakozaki>

聖ペテロ教会・

奈多愛育園・るうてる愛育園 <https://aiikuen.net/>



つか 平和の子、遣わす

10:1 その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。2 そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださる様に、収穫の主に関心なさい。3 行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。4 財布も袋も履物も持って行くな。途中でだれにも挨拶をするな。5 どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。6 平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人にとどまる。もし、いなければ、その平和はあなたがたに戻ってくる。… (ルカによる福音書 10 章 1~20 節/新約聖書 125 ページ)

聖霊降臨後第 4 主日礼拝 (7 月 3 日/説教要旨)

<聖書のみ言葉を届けたい…>

先日、急を要することがあり、お二人の方に送った聖書の御言葉がありました。悩み悲しみの中で、神さまの導きがあるように祈りました。みなさんにおきましても、どなたかに聖書のみ言葉を届けることがおありでしょう。お話をしながら、手紙やメールで、慰めや励ましの御言葉を送る。相手のふさわしい時に、届けられる言葉があれば願うのです。イエスさまはそのようなお気持ちでお話されたのでしょうか。七十二人もの人を選んで



葉を伝えてくださった方がおられるはずです。今度は、あなたの番だと世に遣わされようとしておられるのです。ただ、イエスさまが言われるのには持っていくのも細かく制限があり、しかも「狼の群れに小羊を送り込むようなもの」というリスクも伴います。そして「骨折り損のくたびれ儲け」のように思えることが起こるかもしれないという。それでも事の始めに、まず「収穫の主」に関心なさい、との命じられていることに気がつきます。



<「収穫の主」?>

あまり聞き慣れない、言わない言い方ではないでしょうか。たとえば「全能の主」「天の主なる神よ」「慰め主なる神さま」などは使うでしょう。「収穫の主」の「収穫」とはどんな意味でしょう。それは、イエスさまの助けや憐れみを必要としてい

任命し、ご自分が行くつもりすべての町や村に遣わすのです。神さまのみ言葉を世界へ伝えたい、でもまだまだ人が足りないというのです。今日の聖書を開く私たちにも同じ使命が与えられ、御言葉を託されているものではないでしょうか。考えてみれば私たちにも、かつて聖書の御言

る人のことだ、と聖書学者はいいます。イエスさまの目には収穫したい人が間違いなく映っている。それは悩みなく調子のいい人、活気のある元気な人でしょうか。借り入れ時ではないようです。むしろ悩み多く困り、弱り果てる人を、イエスさま必要とされるのです。その人たちを「収穫」して、自分のところに抱えてもって帰ってくるように、と私たちに命じられるのです。

ところが、一方弟子たちにはその危機感はなかったようです。「刈り入れまでまだ四ヶ月もあります」と、別の同じ内容が記された箇所（ヨハネ 4：35）で発言しているように、まだたっぷり時間がある、とのんびりかまえた様子です。でもイエスさまは違った。先ほど

歌った『教会賛美歌』285番のごとく、「シオンよ（エルサレムの歴史的な言い方）、急ぎつたえよ…よろこびのおとず

れ、いざやいそぎ世に伝えん」と、イエスさまが私たちに歌い告げなかった賛美だと思うのです。具体的には、弟子たちの行く先々に、イエスさまの語る制限やルールが記されてありました。その中で「平和の子」と出会うことがあるというのが、イエスさまの分析です。平和とは、旧約聖書（ヘブライ語）はシャローム「こんなにちは」のような挨拶だったことは知られていますが、「平和」の概念は「slm」で「完成・完全」のことです。単に戦争がないとか消極的な意味でなく、すべてを包括した救い、祝福に満ちた状態をさします。ちなみに新約聖書でも「平和」（ギリシャ語・エイレーネ）は 27 巻中、26 巻に使われている大切な言葉（ヨハネの手紙一 以外）です。「平和ってなんだろう？」先週、恵泉幼稚園年長組の子どもたちの礼拝で、恒例の質問をしました。すると今年は、「大丈夫なこと」「安心」「平和を…守る！」という、守るべきだものという文章の答えも帰ってきました。まさに聖書の「平和」



の意味に則ったものです。「平和の子」どもたちだ、と思い嬉しくなりました。年長組の礼拝や親御さんの保護者会礼拝が今週もあります。ウクライナの難民支援などのために、古着を送る支援のアピールを考えています（QRコード参照）。古着はキチンと洗濯し、送料を自分で負担し、ダンボール一箱一箱に志をもって送る。ルーテル世界連盟（LWF）のネットワークの支援もあります。「平和を実現する人々は幸いである…」聖書の語る「平和」を実現していく「その人たちは神の子と呼ばれる」（マタイに、それぞれが「平和の子」でありたいのです。



＜「収穫」を願う人、すぐそばにも＞

広い世界だけでなく、私たちの身の回りにもイエスさまの収穫を求めて折られる人がいるはずです。私たちは祈り求めているのです。

ご家族、友人、知人、あの人、この人と悩める人、イエスさまの助けや憐れみが必要としている人。助けようとする私も一人では限界があるかもしれない。だからイエスさまは二人をペアにして遣わしました。別の聖書の箇所で二人または三人が心を合わせる中にわたしもいる（マタイ 18 章 20 節）と、複数で祈りを合わせ協力するすすめが語られています。そもそも御言葉よく見れば、イエスさまはこう言われていました。「御自分が行くつものところ」に私たちを派遣される、と。この私が思うどこでも好きなところや、行きやすいタイミングではないのです。イエスさまが「行くつものすべての」場所です。イエスさまの声に耳を傾け想像力をもって聞かねばならないのです。では、どうしたら御心がわかるのでしょうか。

＜私の後からイエスさまが収穫に＞

イエスさまが望まれるのは、シャロームと主の平和を告げることです。それは、私

たちが祈り求めるということにほかなりません。礼拝にあずかり、賛美し、御言葉を吟味する時に浮かぶことがある。その上で出かけていく。行った先々で今日の弟子たちのように一喜一憂して失敗だ、成功だなどと、自分の不満や手応えの感想をもらすでしょう。でも大事なことは、イエスさまの言葉を伝えようとされる人はすでに天の国の名簿、リストに書き記されてあるということでした(20節)。主なる神さまはあなたや私の個人名を知っている。すでにリストが出来ています。その上で、これからイエスさまが行こうとされている地図で特定してくださるのです。これほど大きな安心感はありません。私たちが出向いていく先々で起こる現実がどんなに厳しくとも、余計なものは持たずまっすぐに潔く歩く。たとえそこで失望や徒労にくれても心配ありません。なぜか。必要とあれば、私たちの後ろから、必ずイエスさまが収穫に来られるからです。



善き力に守られつつ

^{あか}「証し」(神さまからのご自身への働きかけ)

A・F

コロナ禍で、いろんな事が制限され翻弄されながらも、この春三男が高校を卒業しました。コロナもあってか、特に短く感じた高校での3年間。彼の高校生活を振り返る時に思いおこされるのは、「12月4日」と「中村哲さん」です。高校1年の2019年12月4日、普段学校から帰ってきても口数少ない彼が珍しく興奮気味で「中村哲さんが、亡くなったって!？」と第一声。銃撃された事に対して、「なぜ?」とひどく落胆していましたが、2週間後にある学校のクリスマス礼拝でお祈りを頼まれていた彼は、「中村哲さんのこと、一緒に亡くなった現地スタッフの人

や遺族の人のことを祈りたい」「中村哲さんってイエス様みたいな人やね。哲さんの生き方の中にイエス様を見た祈る」と話していた事を思い出します。そして昨年、大学の推薦試験の志望理由書を書く中で経済学部を志望する理由のひとつに「中1のチャペルの時間に中村哲さんからお話を聞き、世界での貧困の状況などを知った。豊かな国と貧しい国の経済政策においての差は何か?経済的な面からとらえてよい社会になるにはどうしたらよいか自分にできることを学び模索したい」とあげていました。奇しくも試験日は「12月4日」。試験のため指導担当をして下さった学校の先生は「これは運命を感じるね」と仰ったそうですが、彼の人生の中で中村哲さんとの出会いとその生き方は、非常に大きなものとなったようです。



さて、入学式でほとんどと言っていいほど選ばれる聖書の箇所は、ヨハネ15:16の「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」ですが、卒業式はその年によって違います。今年の卒業式で選ばれた箇所はコヘレトの言葉。

「エルサレムの王、ダビデの子、コヘレトの言葉。コヘレトは言う。なんという空しさ なんという空しさ、すべては空しい。太陽の下、人は労苦するが すべての労苦も何になるう。」(1:1~3)

「朝、種を蒔け、夜にも手を休めるな。実を結ぶのはあれかこれか それとも両方なのか、分らないのだから。」(11:6) コヘレトの言葉で有名なのは、「すべての出来事に時がある」という「時の詩」などですが、選ばれたのは「空しさ」が続く箇所。人生の門出を祝う卒業式に!希望あふれる言葉とは到底思えませんが、コロナ禍で生きづらく閉塞した空しさばかりの現状の中で「それでも生きよ」とコヘレトは語りかけていると話を聞き、今こ

そ読むべきものなのだと強く思いまし

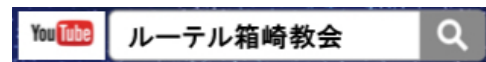
た。コロナ禍で先が見通せない今を生
きる私たちに、「明日はどうかかわら
ない」だからこそ「今日を生きる意味があ
る」と教えるコヘレト。危機の中で私たち
が求めるものは希望ですがコヘレトの言
う希望は「朝、種を蒔け、夜にも手を休め
るな。」 あわせて校長先生は「たとえ明
日世界が滅びようとも、わたしは今日リ
ンゴの木を植える」とマルティン・ルター
が伝えたと言われる言葉を紹介されました。
「今、種を蒔いてもいつ実を結ぶかわか
らない。それでも明日に向かって種を蒔
け。たとえ明日が終わりだとしても今日
を精一杯生きよ」と、コヘレトとルターか
らのエール。「これから先、つらく苦しい
時があるかもしれない。しかし希望を捨
ててはいけない。今日、自分にできる精一
杯のことをしよう。そして誰かのために、
何年か先の未来の人のために、命を使う
人であってほしい」との先生からのほな
むけの言葉を、万感の思いで聞きました。

長男の時から数えて 12 年間お世話に
なった中学・高校を、親である私も卒業す
る思いです。「キリストに忠実なる人を育
てる」ことを教育目標とし「キリストに忠
実なる人」を目指すこの学校で過ごし、学
べた事に心から感謝です。息子たちに形
として残せるものではありませんが、「キリ
ストに忠実なれ」「他者のために命を使っ
て生きよ」と、生きていく上で最も大切な
ことを教えて頂いたこの学校での日々は、
きっと彼らの人生の中で大きな財産とな
って残るだろうと思います。

進学の為、旅立つ日に彼は「18 年間今
まで本当にありがとう！」とあいさつし
て出発しました。こちらこそ、ありがとう。
あなたと過ごした 18 年間はとても楽し
く幸せでした。善き力に守られて、これか

らも恵みと笑顔あふれる毎日であります
ように！

【おしらせ】



- 毎週の礼拝は、いつでも（一度だけ
でも）、どなたでも（信徒でなくと
も）自由にご参加できます
※ 夏休みもつづけています
- 子どもたちには、教会学校のように
「こどもへのおはなし」があり、「祝
福」をいたします
- 礼拝堂の見える隣の部屋を安心して
ご使用できます【エアコン・音響完
備】

ご不明な点は、
牧師まで気軽におたずねください

